

「インド文化体験学習08」

国際教養学部 アジア学科 正 信 公 章

1. 授業の特色と実施概要

08年度、担当者が対象に選定した授業科目は「アジア文化中級演習1D・2D」と「アジア文化上級演習1A・2A」である。以下に、それぞれの授業の特色と実施内容を要約して示す。

■ 1-1. 「アジア文化中級演習1D・2D」

現代に生きているインドの伝統文化について考えることをテーマとするこの演習の最大の眼目は、受講生にテーマにかかわる様々な企画を班単位で立案させ、その過程で必要な基礎知識と資料収集法を学習させ、それぞれの企画を成功に導いて達成感を味わわせることにある。

08年度の例を示せば、その企画内容は、インド映画の学習、南インド料理とチャイの試食試飲、インド式算術による演算体験、ヨーガの講習等、多岐にわたる。以下に、年度実施企画一覧を示す。

《08年度春学期（学生むけ学内公開）》

5月12日	「スプさんと愉快的仲間達」班	スプラマニヤンさんのお話と南インド料理試食体験
5月26日	முத்து (タミル映画) をみる	
6月2日	同上	
6月9日	「ラッキー・ガネーシャ」班	アニメ映像によるガネーシャ神話の紹介(発表)
6月16日	「秋山ぼぼこ」班	講師を招いてのヨーガ体験学習
6月23日	「じしゃしる」班	実地調査等にもとづく歴史的建造物の紹介(発表)
6月30日	同上	

《08年度秋学期（学生むけ学内公開）》

10月20日	「古代インドの秘儀をお教えしましょう」班	映画「カーマ・スートラ」の学習
10月27日	同上	

11月3日 (学祭日) 「திலகா (ティラガ)」班	出店によるインド料理の販売体験
11月10日 「インド式計算研究部」班	インド式演算の体験学習
11月24日 「திலகா (ティラガ)」班	スブラマニヤンさんの指導による出店体験の報告
12月1日 「世界の遺産から」班	「インドの世界遺産」発表
12月8日 「小さなシヴァたち」班	「シヴァという世界」発表

■ 1-2. 「アジア文化上級演習 1A・2A」

土曜開講という利点を活かしてしばしば学外へ出ていくことを特徴とするこの演習の最大の眼目は、受講生にふだんの教室内では実現できないようなユニークな企画を様々立案させ、積極的に学外へ出て広く日本に根づくもしくは見られるインド文化の諸要素を身近に体感させることにある。

08年度の例でいえば、その企画内容は、インド関係あるいは関連各種博物館見学、インド関係映画学習、インド式演算の体験学習、古寺・仏教遺跡・石室の見学等、多岐にわたる。以下に、年度実施企画一覧を示す。

《08年度春学期 (学生むけ学内一部公開)》

- 【企画1】4月12日 1限 画像で解説するマーマッラブラムの世界遺産 (本学演習室)
 - 【企画2】4月26日 午後 「ジプシー・キャラバン」をみる (京都市)
 - 【企画3】5月24日 1泊 リトルワールド・明治村・犬山城 (犬山市)
5月25日 学科行事参加企画
 - 【企画4】5月30日 金4限 講演「アルメニアの社会と人々の生活」(本学講義室)
協力授業参加企画
- (企画3と4は可能な限りいずれか選択)
- 【企画5】6月14日 午後 「インド・大地の布」展をみる (吹田市)
学科卒業生協力企画
 - 【企画6】7月5日 1限 「インド式数学で解いてみよう」(本学演習室)
 - 【企画7】7月12日 1限 大学近辺の身近な考古学 (茨木市)
本学考古学研究会協力企画

《08年度秋学期》

- 【企画8】10月25日 午後 「たとえ明日が来なくても」をみる (大阪市)
自主ゼミ企画

【企画9】11月22日 午後 興福寺、東大寺、頭塔をまわる（奈良市）

【企画10】12月20日 午後 科学館の全天周ムービーをみる（大阪市）

2. 体験学習成果報告

以下に、中級演習では企画班員、上級演習では企画参加者の提出レポートを一部それぞれ例示することで成果報告にかえる。

■ 2-1. 「アジア文化中級演習1D・2D」

「திலகா (ティラガ)」班 企画

「私は今回「ティラガ班」で塩見君と2人で、インド料理を將軍山祭にて模擬店を出店させて、学生にどのようにインド料理が映っているのか、また食べてみてどのような感想をもつのかを調査し発表しました。

私がしたことは、將軍山祭が行われる前に將軍山祭実行委員会に模擬店出店の希望届を提出し受理していただき、衛生講習会に参加し、電話でスブラマニヤンさんとお話しして、食材を提供していただくことのできる了承を得てから一度、四条大宮駅近くのスブラマニヤンさんが経営するティラガというお店に行き食材を試食させていただき、パラッタというパンとチキンカレーを当日売ること決めて、一食あたり250円で提供していただくことになり、300食用意していただくことを決めました。衛生上の問題で、当日に塩見君が四条大宮のお店へ出向き調理された料理を大学にもってこることが、將軍山祭実行委員会からなかなか許可が下りず、何度も保健室や実行委員会の人、スブラマニヤンさんとの電話でのやり取りや話し合いが続き、ようやく許可が下り当日を迎えることができました。当日までに準備したものは鍋2つ、お玉2つ、ガスコンロ2つ、ガスボンベ4つ、割り箸50本、パラッタを包む紙400枚、カレーを入れる皿150皿、ポスター用の模造紙やペンを一人で用意しました。

11月3日当日は正信先生やお子さん、ゼミ生も来てくれて本当に人の優しさにふれることができたと思っています。実際の売り上げは達成までとはいきませんでした。150人近くの方に食べていただきカレーは完売し、学生や先生方もおいしいと喜んで食べていただき、調査結果としては、インド料理は学生にも受け入れられると実感しました。パラッタが残ってしまった原因はカレーをスープとしても売っていた点とカレー一食分の量が多かったことだと思います。また売り上げが150食だった点は単価が高かった点につながると思います。

今回の模擬店の感想として、物を売ることの大変さや物を売るまでの準備期間の大変さを身をもって体験し知ることができました。また、今回は当日までの時間があまりなく時間をかけて計画ができず、模擬店のディスプレイや売り上げのスブラマニヤンさんとの調整、備品の不

備やおつりの確保など不備な点が発生しました。このことから、何をするにしても関わってくる時間を考えて行動するということを学んだように思います。」(杉本要) 本文末写真参照

「インド式計算研究部」班企画

「まずインド式計算とはどんなものなのか、本当に普段やっている計算方法より簡単でかつ速く解けるのかを調べた。先生がインド式計算のことをわかりやすく解説している本があるとおっしゃっていたので、まずそれを図書館で読破した。いっぱいあるインド式計算の中で一番使えそうでなおかつ簡単でかつ速く解けるという計算方法を個人的に3つほど使おうと思い、その計算方法を自分のものにできるように覚えた。

そしてグループの人を集め、私が覚えてきた3つの計算方法を紹介した。これならいけるとみんなに同意をもらい3つの計算方法を発表することにした。次は、朝井君と協力し、企画書と発表文書と計算の方法を書いたプリントと計算式のプリントとアンケートを作成した。企画書は結構面白いものが書けたし、発表文章も丁寧な説明ができそうなものができた。計算方法を書いたプリントは皆にわかりやすいように説明して作成するのが結構大変だった。

次にまたグループみんなで集合して発表のリハーサルをした。みんなで意見をだしあい改善方法を相談し、何回かリハーサルをして発表に臨んだ。そして、いよいよ発表当日。リハーサルどおりに振り分けられた役割をしっかりとこなした。今回、私は黒板を活用し、プリントを読み上げるだけでなく、みんなにわかりやすいようにインド式計算を実践して教えた。黒板を活用することにしたのは、やはりプリントだけでは説明は難しいとリハーサルの時に意見が出たからだ。こうすることによってみんな集中して黒板をみてくれたので、発表中に寝る人はいなかった。それに今回の発表ではみんなにインド式計算の面白さに浸ってもらおうと思い、実際にみんなにもインド式計算をしてもらった。わからないという人にはグループのみんなで分担し丁寧に個別で教えて回った。答えあわせも実際に黒板に答えをみんなに書いてもらう形にして、ちょっとした授業みたいな感じに発表ができたと思う。」(小篠勇史)

「私たちの班は、「インド式計算」について調べました。まず、インド式計算を紹介するにあたって、たくさんの特徴ある計算方法の中からどれを発表するのかについての話し合いをしました。この時点では個人の役割はあまり考えず、授業に参加していた全員で意見を出しました。これ以降の作業を個人の役割として発表日までの準備を進めていきました。

資料作成の役割は、「問題用紙作成担当」、「解答用紙作成担当」に振り分けました。問題用紙作成担当を希望した私は、あらかじめ班で目星をつけていた資料をもとに、インド式計算の中でも解りやすいものを選び、問題を作成しました。このときに、インド式計算を初めて知ったひとにも「難しい」という抵抗感を持たせないために楽しみながら解けるような難易度にする、

「日本の計算法との違い」がはっきりしていて、よりインド式計算に興味を持ってもらえるようにする、という2つの点に注意しました。

発表の役割は、「例題の説明担当」、「サポート担当」に振り分けました。ここではサポート担当を希望したため、練習問題を解いてもらうときに全員の進み具合を見たり、質問があるときには解りやすいように解説したり、必要があれば黒板に問題や解答を書き写したりなどのサポートをしました。実際に発表してみると、もともと易しい問題を選んだつもりでしたが、やはり馴染みのない計算方法に戸惑っている人や、遅刻してくるひとがいたために思ったよりは仕事が多く、やりがいのある役割でした。発表後にとったアンケートでは、「発表のときに前に出ているだけで何も発言していないひとがいた」という声もありましたが、原稿を読むだけが発表なのではなく、サポートの重要性が伝わらなかったことは少し残念でした。この意見への対策としては、発表の前に例題の説明役とサポート役がいるということをはっきりさせておけば伝わったのではないかと思います。

感想としては、春学期の発表のときよりも班員の中で発表に参加しているひと・していないひとの温度差が少なく、全員で協力して取り組みました。テーマも前回のヨガがどうしても講師の方を中心とした発表だったため、自分たちでどのような発表がしたいのかを思い描きながら進めていくというやり方で、なおかつ聞いているひとでも参加できるような形式の発表ができたことにとっても満足しています。問題を解いているクラスの人たちも、計算問題だからといって嫌がらず、全体的に楽しい雰囲気での発表ができました。インド式計算は歴史が深く、また計算方法も数多く存在するため全ては調べられなかったもので、これをきっかけに興味を持ち、自分の今後の研究課題につなげていきたいです。」(北村彩恵)

■ 2-2. 「アジア文化上級演習 1A・2A」

【企画2】

「ロマの人々にとっては、なにより家族が最優先。タラフの長老、バイオリン奏者のニコラエおじいさんがまだ生きている時の発言が特に印象的で、「演奏の稼ぎで家族を支えている。学費も払っている。自分のことはもういい、家族が笑っていてさえくれれば。」この言葉に私は胸を打たれました。・・・ロマの社会は一般の人から無視されて、曲がった道を歩くことを余儀なくされてきました。しかし、自分自身で家を建て、仕事につき、音楽で人々を救い、家族を養っている。まっすぐした道はなくとも、ちゃんと到達すべき場所へと向かっている人たちの姿は実に美しく、私自身もそのような生き方は夢のように思っており、本当の人間の存在意義が証明されているような気がしました。」(堂下雄矢)

「言葉で気持ちを伝えるということもとても大切なことだと思います。英語を十分に話せな

「私が知っている単語をつなげて思いを伝えるよりも、たとえ言葉の意味が相手にわからなくても、自分の考えていることを自分の言葉（日本語）でそのまま伝えたほうが気持ちは分かちあえるのではないだろうかと思います。歌も一緒に、意味や内容はわからないけれど、一生懸命歌っている歌は心に響きますし、琉球なら琉球の、ジプシーならジプシーの音楽でその文化とともに思いを込めたその言葉で伝えているほうが魅力的だと感じます。映画の中でも昔ながらの文化的な音楽や、言葉にこだわっている人たちがいました。どんどん新しいものへと変わっていく中で古き良きものを大切にすることは大変なことだと思いますし、本当にすごいと思いました。」（山口侑里）

【企画3】

「リトルワールドは、一日にたくさんの国の食べ物を食べ家を見学し、衣装を着たりお土産が買えたりするのでとても楽しかったです。私はドイツとイタリアの民族衣装を着ました。普段できない服装なのでいい経験になりました。外国人が日本の着物を珍しく思う気持ちが少しわかりました。食べ物は、ドイツのソーセージとワニの肉を食べました。ワニの肉は自身で鶏肉のような魚のような初めて食べる味でしたが美味しかったです。食べたり衣装を着たりすると証明書をくれるので面白いと思いました。」（森夕季乃）

【企画5】

「民芸館を訪れてみて本当に人間の手で作る技術というものは機械では勝てないものなんだと感じました。本当に1本1本の糸がきれいに縫われていて、またデザインというのもまさにインドのイメージを想起させるもので、たまにテレビなどで見るインドの人たちが着ている服はもしかしてこういった技術のなかでつくられているものなのかもしれないと思うと、すごく何か感じるものがありました。卒業生の吉田友里恵さんがいらっしゃったおかげで時間もよい流れで見れたのに加えて、本当に丁寧に説明して下さって、自分らでは多分見ているだけでは理解できなかっただろうなといった部分もすごく分かりやすく説明していただき、また興味をそそられてついつい聞き入ってしまうほど大満足の企画内容だったと思います。」

（新井田圭佑）

「卒業生の話を聞いて、私が一番印象に残っているのは、インドの女性が結婚するときに相手のお母さんに自分が作った布をプレゼントするということです。作った布がどれだけ上手くできているかでその人を判断するということを聞いて驚きました。インドは日中とても暑いので女の人はその間刺繍をしていると言っていました。毎日刺繍をして、何日もかけて1つの作品を作りあげていくから、あのような繊細で綺麗な作品ができていくのだと思いました。」

（三木麻美）

「北部インドのヒマーチャル・プラデーシュ州では編み物が増える。靴の中に藁が敷いてあり動物の毛があしらわれているものもあった。暑い国であるイメージが強いインドであるが、国境の山脈地域は保温性と保湿性が考えられた布が多く見られる。ジャンムー・カシュミール州に由来する高級素材カシミアやウール、家畜のヤギや羊から採取できる布が作られているようだった。高い台地に住むにはそれだけの工夫が必要になってくる。寒暖の厳しい環境に適した素材がその土地それぞれで選び取られている。暑い地域ではキラキラと綺麗なミラーも光を身体に溜めないように反射させる工夫だと吉田さんが言っていた。単純に綺麗だと思っけてもその国に住む人間の地域性や民族性、数々の理由があって成り立っているんだと強く感じた。」(平木麻織)

【企画 6】

「インド式数学は、最初は少しなじみにくいため、練習が必要だと感じました。なれないときは、逆に普通の計算をするほうが速いなと思いましたが、慣れるとこっちのほうが速いのかなと思いました。日本の数学と一番違うと思ったのが、線や図形を書いて答えを導き出したりと計算だけでない導き方をしているところだと思います。やってみると、思っていたよりも意外に簡単だったなと思いました。もっと練習して慣れると、普段でも使えそうだなと思しました。」(宮西香奈子)

「授業でインド式のいろいろな計算法で問題を解いてみた。気づいた点が三つある。①なれるのにはそう時間はかからず意外にも速く解けたが、やはり今までやってきた日本式の計算法の方が少しは速い。けれども、インド式は暗算でできることに気がついた。例えば日本式は「 84×52 」の計算は筆算を用いて答えを導くが、インド式はやり方さえ覚えれば暗算でいとも簡単に答えを導ける。また三桁、四桁となっても基礎のやり方さえ解れば後は応用だけですむ。②インド式計算法で計算をおこなっていると非常に楽しく問題を解いていることに気がついた。初めてインド式計算法を習ったからかもしれないが、数字を扱うことが苦にならなかった。計算はあまり得意ではないのに、このようなやり方なら数学が好きになっていたかもしれない。③またインド式計算法のやり方が多様なのにも驚かされた。たすき掛け、マス計算、線引き計算等どれをとっても解りやすい。こういった発想力がインドを成長させているのかもしれない。」(梅津巧)

【企画 8】

「男女の三角関係をドロドロ一切なしで描いた恋愛映画。アマンもローヒットも誠実ないい男でした。そんな男たちに愛されながら不器用だけど懸命に生きるナイナは「ナイナ！羨まし

いぞ!どっちかこっちに渡せ!」と思ってしまうくらいでした。最初はナイナを中心に観ているが、何回か観ているうちにアマンとローヒットの友情の方に目がいってしまいます。ローヒットを演じるサイーフ・アリ・カーンが自然体でよいと思いました。アマンを演じるシャー・ルクは決して正統派男前ではないです。しかし彼の動きや仕草はハッとするぐらい色っぽい時がありました。音楽もしみじみ聴ける名曲ぞろいでした。ただ個人的にはカメラワークが凝りすぎた感じに思えます。映画が終わったあと、周りでは涙を流している人がたくさんいました。私もとても感動し、こんな純粋な恋愛がしたいなという気持ちになりました。」(山戸智香子)

【企画9】

「興福寺に来たのは小学生の時以来だったのですが、昔は寺のことよりも鹿に夢中だったので大人になってから来ると見る視点が変わり、とても有意義な時間を過ごすことができました。特に五重塔の心柱の廻りに配置されている薬師如来像、阿弥陀如来像、釈迦如来像、宝生如来像は荘厳でとても美しいなというイメージを受け、圧倒されました。当たり前のことですが館内すべて撮影禁止だったのが、とても残念でした。普段の生活のなかでは歴史的なものに触れ合うことが少ないので、こういった機会に日本の歴史に触れさせて頂き、とても良い経験ができました。」(堤啓一郎)



写真:「திலகா (ティラガ)」班企画による模擬店の様子